

薬理学 3

責任者・コーディネーター	薬学教育学分野 奈良場 博昭 教授		
担当講座・学科(分野)	薬学教育学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

本講義では、化学物理系、生化学、分子生物学、微生物学、機能形態学等の基礎薬学系科目において修得した知識と薬理学1・2で得られた知識を基礎とし、腎・泌尿器疾患、アレルギー・炎症、内分泌疾患に対して使用される薬物を主題に、薬理作用や有害反応について学ぶ。加えて、薬物依存、薬物相互作用、薬物中毒、医薬品の安全性評価、医薬品のセーフティーマネージメントについても学ぶ。

本講義は、第3学年前期「医療薬学1」、「医療薬学2」を始め、高学年次で学ぶ医療薬学系科目の基盤となる。

・教育成果（アウトカム）

腎・泌尿器疾患、アレルギー・炎症、内分泌・生殖器系疾患に作用する薬物に関する基本的知識を修得することで、その薬理作用、薬理機序および主な副作用について説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー：2,7)

・到達目標（SBO）

1. アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息、のアレルギー疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（623）。
2. スティーブンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤性過敏症症候群、薬疹、の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態および対処法を説明できる（624）。
3. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（625）。
4. 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ、の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（628）。
5. 関節リウマチについて、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（630）。
6. 利尿薬の薬理および臨床適用を説明できる（646）。
7. 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（647）。
8. ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（648）。
9. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（649）。
10. 慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、薬剤性腎症、腎盂腎炎、膀胱炎、尿路感染症、尿路結石、の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（650）。
11. バセドウ病について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（673）。

12. 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（674）。
13. 尿崩症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（675）。
14. 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫、の生殖器系疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる（651）。
15. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理、および薬物治療を説明できる（652）。

・ 講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/9	木	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療① 1. アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。 2. アレルギー疾患について、治療薬の薬理作用および病態、薬物治療を説明できる。 事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。 事後学習：授業資料を用いて復習しておくこと。
4/16	木	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療② 1. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理作用および病態、薬物治療を説明できる。 2. 自己免疫疾患について、治療薬の薬理作用および病態、薬物治療を説明できる。 事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。 事後学習：授業資料を用いて復習しておくこと。
4/23	木	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	泌尿器系の薬、病態、薬物治療① 1. 利尿薬の薬理作用および臨床適用を説明できる。 2. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理作用および病態、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。 事後学習：授業資料を用いて復習しておくこと。

4/30	木	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	<p>泌尿器系の薬、病態、薬物治療②</p> <p>1. 代表的な泌尿器系疾患について、治療薬の薬理作用および病態、薬物治療を説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：授業資料を用いて復習しておくこと。</p>
5/21	木	3	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	<p>内分泌疾患の薬、病態、薬物治療①</p> <p>1. Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>2. 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：授業資料を用いて復習しておくこと。</p>
5/28	木	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	<p>内分泌疾患の薬、病態、薬物治療②</p> <p>1. 以下の疾患の治療薬、病態、薬物治療について説明できる。</p> <p>先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）</p> <p>事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：授業資料を用いて復習しておくこと。</p>
6/4	木	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	<p>生殖器系の薬、病態、薬物治療①</p> <p>1. 代表的な生殖器系疾患について、治療薬の薬理作用および病態、薬物治療を説明できる。</p> <p>事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：授業資料を用いて復習しておくこと。</p>

6/11	木	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	生殖器系の薬、病態、薬物治療② 1. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理作用および薬物治療を説明できる。 事前学習：教科書の講義内容に該当する分野を読んでおくこと。 事後学習：授業資料を用いて復習しておくこと。
------	---	---	---------	-----------	--

・教科書・参考書等教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	薬系薬理学書	立川英一、田野中浩一、弘瀬雅教 監修	南江堂	2018

・成績評価方法

定期試験（100%）で評価する。

・特記事項・その他

・予習復習のポイント

復習として前回のプリントを確認して、毎回実施するテストを再度解くこと。予習に関しては、必要に応じて授業中に指示する。これらの学習には各コマに対して、事前・事後にそれぞれ60分程度を要する。更に、定期試験前に12時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

・試験や課題に対するフィードバック

確認テストは、毎回の授業で実施する。この結果は、授業内容に反映させ、理解度が不十分な部分を中心に補足説明を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（東芝、RX/T9E）	1	スライド投影のため